

船舶所得ニ對スル國際ニ重課稅ヲ廢除スルカ爲ニ
相互免除ノ方法ヲ採用スルノ可キ

(大正三三三三国内國稅)

國際ニ重課稅問題中船舶所得ノ二重課稅問題ハ昔
更各國ニ於ケル實際問題トシテ其ノ解決ヲ最モ急トナス
モノナリ、故ニ米國ニ於テハ既ニ一九二二年歲入法第ニ三條
(B)ノ(8)ヲ新定シ以テ合衆國ニ住居セサル外國人又ハ外
國法人ノ合衆國內ニ於ケル外國船舶ノ運送ニ由ル所得
ニ對テハ相互主義ノ條件ニ於テ免除スルコト、ナレ英國モ
亦昨年財政法第十八條ヲ以テ大體ニ於テ米國ト同様ニ
ル相互免除ヲ爲スヘキ協約ヲ關係諸國ト締結シ得
ヘキ權限ヲ政府ニ認メタリ、茲ニ之ニ關シ研究スルニ、

一、理論上、國際ニ重課稅廢除方法、最モ理論ニ適ル
モノハ當該所得ニ付キ經濟的關係ヲ有スル諸國ニ於
テ其有スル關係ノ程度ニ從ヒ之ヲ限取トシテ課稅スルニ
アリ而シテ普通ノ所得ニ付テハ所得ノ發生地國ヲ以テ
經濟關係ヲ有スルコト最モ多シトナスヘシト雖船舶所
得ハ普通ノ所得ト異ナリ所得者ノ居住地國ヲ以テ
最モ多シトナスヘシ之レ船舶所得ハ公海ヲモ發生地
トナシ船舶ハ公海ニ於テハ船籍國ノ保護ノ下ニ在リ而
シテ船籍國ト所得者ノ居住地國トハ多クハ一致
スレハナリ。

實行上、理論上ニ於テハ經濟的關係ヲ有スル諸國ニ於テ
分界課稅ヲナスヘキモノナリト雖船舶運送ノ如キ多數

ノ國家ト關係アルモノニ付テハ其課稅ノ分界ヲナスコト甚
難事ニシテ各國家ノ間ニ紛争ヲ生スヘシ而シテ分界課
稅ニ依ラスニテ所得發生地國家ニ於テ課稅スヘシ
トナスモ亦同様ニ實行上ノ困難ヲ免レス故ニ所得ヲ收
得スル者ノ住居國タル一國家ニ於テ課稅セハ實
行上ノ困難ヲ避ケ得ヘシ然リト雖所得發生地國
家ノ調査上ノ共助ヲ得サレハ確實ナル課稅調査ヲ
ス能ハサルヘシ。

三、政策上、船舶所得ノ二重課稅廢除ノ方法ハ前
述ノ如ク所得者ノ住居地國ノニ於テ課稅シ其所
得發生地國ニ於テ免除スルヲ以テ實行上容易

ニテ且理論上ニ於テモ比較的穩當ナルモノナルカ故ニ
夫米國ノ定ル相互免除主義ヲ採用スルヲ可ナリト
ス而シテ之ニ關シ我國ノ利害ヲ考フルニ、

(一) 財政上、外國在住外國人、我國内ニ於テ為ス
外國船舶、運送行為、所得ニ對スル課税ニ
除シ其収入ヲ失フニ對シ從來我國ノ課税ニ於テ
經費トシテ控除シタル外國所得税額無キニ至ル
結果所得税ノ増収ヲ未ダヘシテ此差引計算
ハ調査中ニテ不明ナレトモ要スルニ外國ト我國ト所得
税率ノ高低及我船舶ノ外國ニ於ケル出入ト外國
船舶ノ我國ニ於ケル出入トノ多少ノニヨリテ定マルヘキモノナリ

(二) 海運業及國民經濟上、外國ニ於テ我船舶ハ
課税セラレサルヲ以テ外國ニ於テハ我海運業者ハ
外國海運業者トノ競争ニ於テ有利ナリト雖モ我
國ニ於テハ正ニ之ニ反ス而シテ尙之カ利害ニ付テハ彼我ノ
所得税率ヲ較量セサル可ラス。

(三) 國交上、外國在住外國人ニ對スル課税調査ノ為ニ
殊ニ船舶所得ノ如キ性質上所得ノ内外國ニ於ケル
區分困難ナルモノニ付テ生スヘキ煩累ト紛争トヲ避ケテ
國際親善ヲ害スル虞無キヲ得ヘシ。

以上諸種ノ點ヨリ米國英國其他各國ニ對スル我國ノ
利害ヲ考察スルモ其數字の根據ハ調査中ニテ之ヲ

示ス能ハカシテ米國ト同シキ相互免除ノ主義ヲ採用
スルヲ可ナリトスヘシ、

四、米國ト同シキ相互免除主義實行手續

(一) 米國ニ對シテハ我所得稅法中ニ米國一九二二年歲入
法第ニニ條(ハ)ノ(八)ト同様ノ規定ヲ制定スルハ可ナリ
而シテ將來米國ニ於テ全條ヲ廢止シ相互免除ヲ
廢止スル事ナカラシメムトセハ別ニ之ニ關シ條約ヲ締結
スヘシ。

(二) 英國及其他ノ諸國ニ對シテハ我ヨリ進ムテ相互免
除ニ關スル條約ヲ締結スルカ又ハ米國ノ如キ相互免
除ノ規定ヲ制定シ以テ諸國ヨリ交渉ヲ待ツベシ。

大正十三年六月十五日
内國稅調查課

船舶運送業ニ重課稅ニ關スル調